令和5年度　WWLコンソーシアム構築支援事業　成果報告会

地域の特性を生かした、未来のリーダー育成システムの構築

～WWL3年間を終えて～

新潟県立三条高等学校

新潟県央地域の特性

新潟県三条市　　人口：７万人

主な産業：

・金属加工業（包丁、利器工匠具、作業工具や自動車･農業機械などの鍛造部品、プレス加工や金型製造等）

・近年では、アウトドア用品が有名

新潟県央地域（三条市、燕市、加茂市、田上町、弥彦村）

人口：２１万人

・燕市：金属加工業（金属洋食器､金属ハウスウェア､伝統金属工芸等）

・加茂市：木工､繊維､電気､機械､金属､皮革､食料品等の複合産業都市

品質の高い製品･農産物を生産し、独創的なアイディアで世界に進出する企業が集まる。

三条高校　WWLの構想

【構想名】

希望に満ちた未来を創るリーダー育成システムの構築

～地場産業の町･日本の穀倉地帯からSDGs達成を目指す～

【構想の概要】

・県央地域の特色を背景に「産業」「農業・食料」「環境」を基本テーマとする。

・ＳＤＧｓ達成に向け地元企業等と連携しながら地域課題の理解を深める。

・海外の高校･大学等とのオンライン交流･国際会議等を通じ、視野を広げて課題を捉え直し、課題解決を目指して探究を深めていくカリキュラムを開発する。

・成果を県内外に拡大する。地域･県･世界をつなぐＡＬネットワークを構築し、高度な学びを提供する。

運　営　組　織

管理機関	新潟県教育委員会	事業拠点校	新潟県立三条高等学校

事業協働機関	［行政］ 新潟県政策企画課･国際課･大学私学振興課、新潟県農業大学校、新潟県農業総合研究所、三条市、燕市 ［大学］ 長岡技術科学大学*、新潟大学*、新潟県立大学*、三条市立大学* ［企業］ 三条商工会議所*及び加入企業、燕商工会議所*及び加入企業、燕三条地場産業振興センター、ＪＡ全農にいがた* ［機関］ ＪＥＴＲＯ新潟、ＪＩＣＡ東京（新潟デスク）　（*は運営指導委員）
事業連携校	［県央ネット］ 三条東高校（医療専攻）、三条商業高校、新潟県央工業高校、加茂農林高校、燕中等教育学校 ［NSHネット］ 新潟南高校、新発田高校、長岡高校、柏崎高校、高田高校、国際情報高校 ［NGPネット］ モンゴル･新モンゴル日馬富士学園、中国･黒竜江省実験中学、ロシア･ハバロフスク地方立教育機関、ベトナム･チャンフー高校

検証委員	関根税理士事務所 三条信用金庫	カリキュラムアドバイザー	新潟県教育庁高等学校教育課副参事指導主事 新潟県立教育センター指導主事

学校設定教科「ＷＷＬ」の各科目（全生徒が履修）

		１学年	２学年	３学年
グローカル探究⑤	グローバルフィールドワーク	・現地研修（地場産業・農業法人等）	・課題研究テーマに関連する場所や対象を訪問、調査、研究	・課題研究テーマに関連する調査、研究の検証
	ＷＷＬ特講	・大学教授等による特別講義（月１回程度）「データにみる新潟県」「SDGs」等	・大学教授等による特別講義（月１回程度）「自治体の地域課題への取組」「国境なき医師団」等	・大学教授等による特別講義
	課題研究	・探究活動に関するガイダンス ・グループでの課題設定、課題解決に向けた研究活動 ・大学、企業、研究機関による指導 ・日本語での報告書作成 海外研修	・グループでの課題設定、課題解決に向けた研究活動 ・大学、企業、研究機関からの指導 ・英語での報告書作成	・３年間の研究活動成果の報告書作成（グループ研究成果の個人へ落し込む） ・大学、企業、研究機関からの指導等
ＷＷＬ情報②		・「情報Ⅰ」の内容を基に、学校設定科目「グローカル探究」の課題研究、データ分析、成果発表等に関連した内容を含め、長岡技術科学大学、三条市立大学等と連携してカリキュラムを開発する。一人一台で配備されたタブレット端末を活用し情報活用能力や思考力、表現力等の育成を目指し、実践研究をする。		
ＷＷＬ論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ⑧		・「論理・表現Ⅰ」」の内容に加え、海外連携校等との文化交流、地域課題の共有等	・「論理・表現Ⅱ」」の内容に加え、海外連携校等との文化交流、地域課題の共有等	・「論理・表現Ⅲ」」の内容に加え、海外連携校等との意見交換等
ＳＤＧｓ世界史（R3入学生②）		・WWL論理・表現はR4に入学生から ・丸数字は３年間の単位数	・「世界史A」の内容に加え、近現代の地理的条件等とSDGｓ、新潟の地域課題	

新潟県ＷＷＬ高校生フォーラム

海外連携校、県内外の連携校、ＷＷＬ拠点校等によるＳＤGsをテーマにした国際会議を開催

Ｒ４入学生からは「歴史総合」「グローカル探究」で扱う

教育課程編成の方針

1　指定初年度の取り組みの中で、探究活動に対しての手応え
⇒**より充実させる改善**

2　全国高校生フォーラムへの参加等で英語レベルアップの必要性を痛感
⇒**英語を使用する機会を増やす改善**

教育課程編成に際しての変更点

１　探究学習の強化　学校設定科目「グローカル探究」

１年・２年　　１単位　→　２単位

まとめ取り　→　１単位を時間割に組み入れる

２　英語力の強化

拠点校指定時の教育課程では、英語は従来のまま

→「ＷＷＬ論理・表現」を１単位増で学校設定科目とする

☞これらの変更が事業効果・成果に大きく作用したと考えている。

学校設定科目「グローカル探究」の取組

▸活動単位：１年、２年はグループ単位、３年は個人単位

▸活動の枠組み

１年：SDGｓを入口にして主にグローバルな問題からテーマを設定し探究を行う。

２年：地場産業、農業・食料、環境を重点分野に、地域課題かテーマを設定し、探究を行う。

３年：１年、２年での探究活動を踏まえ、自らが解決に貢献する社会課題を定め、その実現に向けた進路設定・進路実現のための探究を行う。

学校設定科目「グローカル探究」の取組

▸指導の形態

1　探究の指導は複数教員で担当する。（１～３年）

2　１年では、クラス単位で授業を行う。

3　２年では、全クラス一斉で行い、クラスの枠を外したグループ編成を可能とする。

　メリット：１年時の継続を可能とする。（テーマ、メンバー）分野別に担当教員を割り振ることができる。

4　３年では、全クラス一斉で行う予定。

◎この指導形態は探究活動の深化に効果的

学校設定科目「グローカル探究」の取組

▸指導の留意点

1　単なる「調べ学習」で終わるのではなく、実践できる提案として

まとめる。

2　フィールドワークを推奨。

関連する企業、自治体、団体等へのインタビュー、アンケート等
（教員がフォローしながらも、基本的には生徒主体で実施）

学校設定科目「グローカル探究」の取組

▸外部機関との連携

1　大学、自治体、事業所の職員を講師とするWWL特講の実施

2　探究発表会に大学、自治体、事業所の職員を招き、助言、講評の機会とする。

☞効果

▸現状理解、基本的スキル、専門的、現場の立場からの視点の導入等による生徒への刺激効果あり。

▸外部機関とのネットワーク構築に寄与。

学校設定科目「WWL論理・表現」の取組

1　県内大学留学生の活用

１年　　「グローカル探究」で行った個人単位でのSDGｓレポートを英訳し、プレゼンテーションスライドを作成した。

　県内大学の留学生に対して英語でプレゼンテーションを行い、質疑応答を行った。

学校設定科目「WWL論理・表現」の取組

２　外部プログラムの活用

グローバル・スタディズ・プログラムに生徒全員が取り組んだ。

２年生：１年生で２日間、２年生で２日間

１年生：１年生で５日間

☞効果　○　英語のみのプログラムに一定期間集中的に取り組むことで、英語を使うことへの抵抗感の払拭に大きな効果が認められた。

○　英語を通じて、ボディランゲージを含む伝えるコミュニケーションへの意識の改善にも効果が認められた。

学校設定科目「WWL情報」の取組

１年　　スライド作成、動画作成等プレゼンテーションにかかわる技能の習得。

２年　　長岡技術科学大学院生５名がティーチングアシスタントとしてプログラミングの授業に参加。（高大連携）

海外交流の取組

１　オンライン交流

Ｒ３年度：チャンフー高校（ベトナム）
　　ハバロフスク地方立教育機関「地方教育センター」（ロシア）
　　黒竜江省実験中学（中国）

Ｒ４年度：ファイワット・セカンダリースクール日本語専攻クラス（ラオス）
　　新モンゴル日馬富士学園
　　台北城市科学大学応用外国語学科高専部

Ｒ５年度：新モンゴル日馬富士学園
　　台北城市科学大学応用外国語学科高専部
　　台中市立台中第二高等学校

海外交流の取組

２　留学生の受け入れ実績

Ｒ３年度：１人（マレーシア、10月～2月）

Ｒ４年度：１人（スリランカ、６月～３月）

２人（ブルガリア・モンゴル、11月（短期））

Ｒ５年度：１人（ドイツ、８月～）

１人（インド、10月（短期））

３　教員研修の受け入れ実績

Ｒ５年度：２人（新モンゴル日馬富士学園、１か月間）

海外交流の取組

４　海外研修旅行（希望者）

Ｒ３年度：（実績なし）

Ｒ４年度：ベトナム・ホーチミン市　12人　３月

Ｒ５年度：ベトナム・ホーチミン市　24人　１月

◎　WWL事業実施前は、海外交流実績が皆無に等しい

→　海外交流が日常的な状況になる

WWL新潟高校生国際会議の開催

令和５年10月19日・20日
スノーピーク・ヘッドクォーターズキャンプフィールド

県内外２３校（海外オンライン２校を含む）150人以上の高校生が参加。

WWL新潟高校生国際会議の開催

テーマ　　同じ空の下、話そう未来の希望を

Under the same sky, let’s talk on our SDGs for the bright future!

分科会テーマ

A. イノベーションを起こそう　To create innovation
B. 豊かな自然を守ろう　To preserve beautiful nature
C. 格差・不平等をなくそう　To reduce inequality
D. 異なる価値観を認めよう　To accept different values
E. 貧困をなくそう　No poverty
F. 持続可能な社会の発展　Sustainable social development

WWL新潟高校生国際会議の開催　　参加生徒の声

- 英語でも日本語でも、伝えたい事をより簡潔に、より相手に分かりやすく伝えることが最も重要だなと再確認した。
- 受け身にならない事で話し合いが活発になる、思ったことはためらわずに話したほうがいい、他の班や自分の班でも、班をまとめている人は特に笑顔が素敵でキラキラしていた
- 休憩時間にスマホを触るのではなく、初めて出会った友達とともに走ったり散歩したりでき、楽しくリフレッシュすることができた。

WWL新潟高校生国際会議の開催　　参加生徒の声

- 他の学校の方と関わる機会はあまりないので貴重な体験ができて良かったですし、凄く楽しかったです。ありがとうございました。
- 今回は高校生国際会議に参加させていただきありがとうございました。県内外の同年代の方々としっかり時間をとって国際的な話題について話し合うことができ、新たな視点・発見がありました。これからもこのような話し合いの機会をいただけると嬉しいです。
- いろいろな学校の方と話し合い、英語力の違いを改めて実感したので、英語学習へのモチベーションになった。テーマが少々難しかった反面、楽しく意見交流をすることができた。

WWL新潟高校生国際会議の開催　　引率教員の声

- 話し合いは開放的なものだというメタメッセージが、参加者の開放的な気持ちにつながり、議論が円滑に進むのを手助けしているように思えてよかった。
- 非日常の開放的な空間によって心もオープンになれたと思います。また、一緒の経験をする(焚火のにおいをかぐ、マシュマロを焼くなど)ことで、言葉以外のコミュニケーションがあり、それが午後の活動で勇気を出して話せる場の土台となっていたように思います。
- ２日間、高校生の姿を見ながら「リーダーシップとはなんだろう？」ということをずっと考えていました。そして、参加した生徒誰もがリーダーシップを発揮していたのではないかと思います。リーダーシップとは自立した個人がその場や目的に応じて自分ができる貢献をすることなのではないかと思いました。「英語で」という条件がついたことでハードルを高く感じた人もいるかもしれませんが、誰でも参加できる場となるよう工夫された企画だったと思います。

WWL事業の学校全体への波及効果

▸アンケート項目で数値上昇項目

　希望に満ちた未来を作るために、提言や挑戦ができるリーダーになりたい。

　将来、国際的に活躍したい。

　将来、地域の問題解決に貢献したい。

　英語を使って、目的、場面、状況に応じてコミュニケーションがとることができる。

　実験結果やアンケート結果をわかりやすくまとめることができる。

　ICTを活用し、情報を収集、分析、発信することができる。

WWL事業の学校全体への波及効果

質問項目（生徒対象）	R5.2月		R3.12月 2年生 (WWL前)
	2年生	1年生	
1　県央地域の課題を理解している	８２％	６９％	４９％
2　日本や世界が直面している問題を理解している	９１％	９２％	８６％
3　SDGsの概要を理解している	９５％	９６％	８７％
4　文章や情報を正確に読み解き，それについて他者と議論することができる	９０％	８７％	８３％

WWL事業の学校全体への波及効果

質問項目（生徒対象）	R5.2月		R3.12月 2年生 (WWL前)
	2年生	1年生	
文章や情報を正確に読み解き，それについて他者と議論することができる	９０％	８７％	８３％
課題について，科学的に思考・分析することができる	７７％	７９％	７２％
実験結果やアンケ ート結果をわかりやすくまとめることができる	９０％	９１％	８１％
学校外の人の意見を活かしながら，課題解決に取り組もうとしている	８３％	８５％	７１％
相手に伝えるときに，わかりやすく説明しようとしている	９７％	９９％	９６％

WWL事業の学校全体への波及効果

生徒の変化

入学時：海外交流等に興味を持つ生徒の入学

在学時：探究活動フィールドワーク推奨

→主体的な調査活動地域や事象への直接的な関わり

プレゼンテーション意欲の向上

地域や世界への意識や行動力等、積極性の向上

卒業時：社会貢献を意識する生徒の増加

自走への展望

1　委託支援終了後も継続できるプログラム・イベントの選定

⇒三条高校の特色として定着させる

2　令和7年度から設置予定の「理数科（仮称）」設置との連動

3　自走のための予算確保に向けた方策の検討

⇒同窓会などへの協力依頼

御清聴、ありがとうございました。